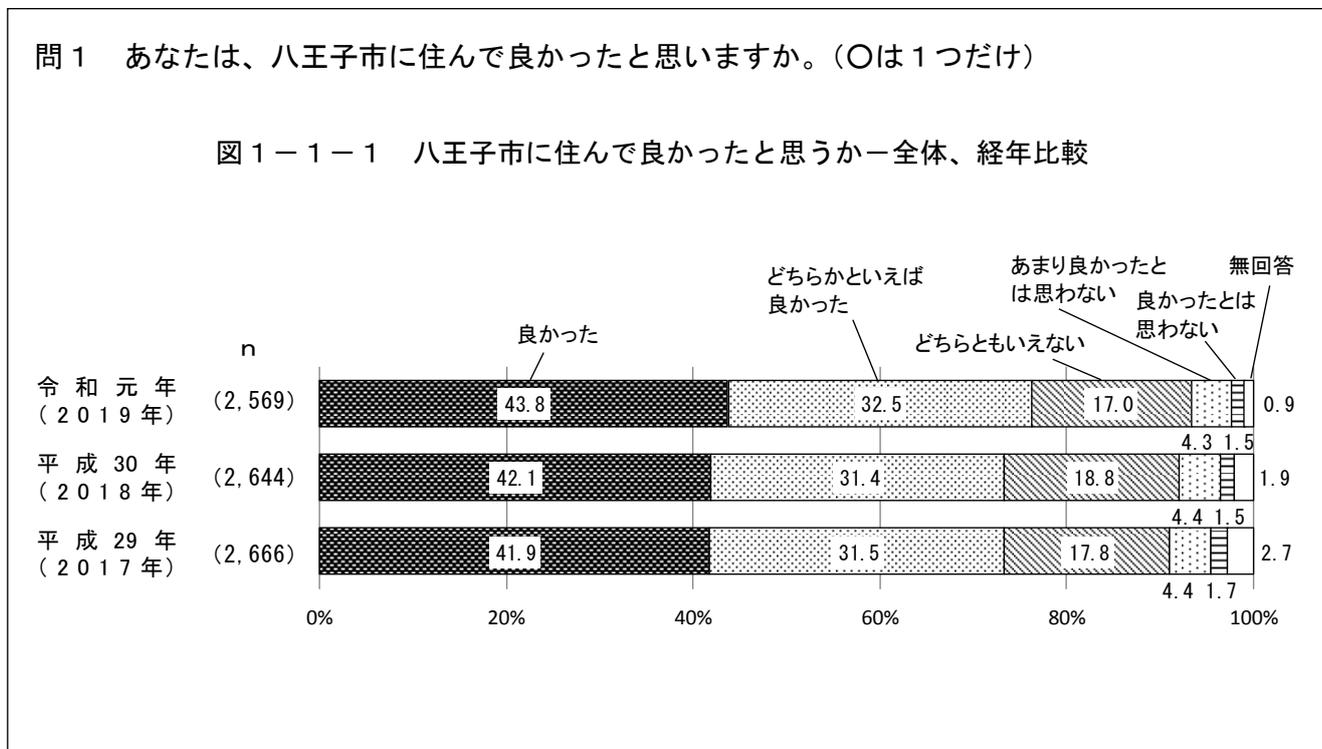


III 調查結果

1. 定住意向

(1) 八王子市に住んで良かったと思うか

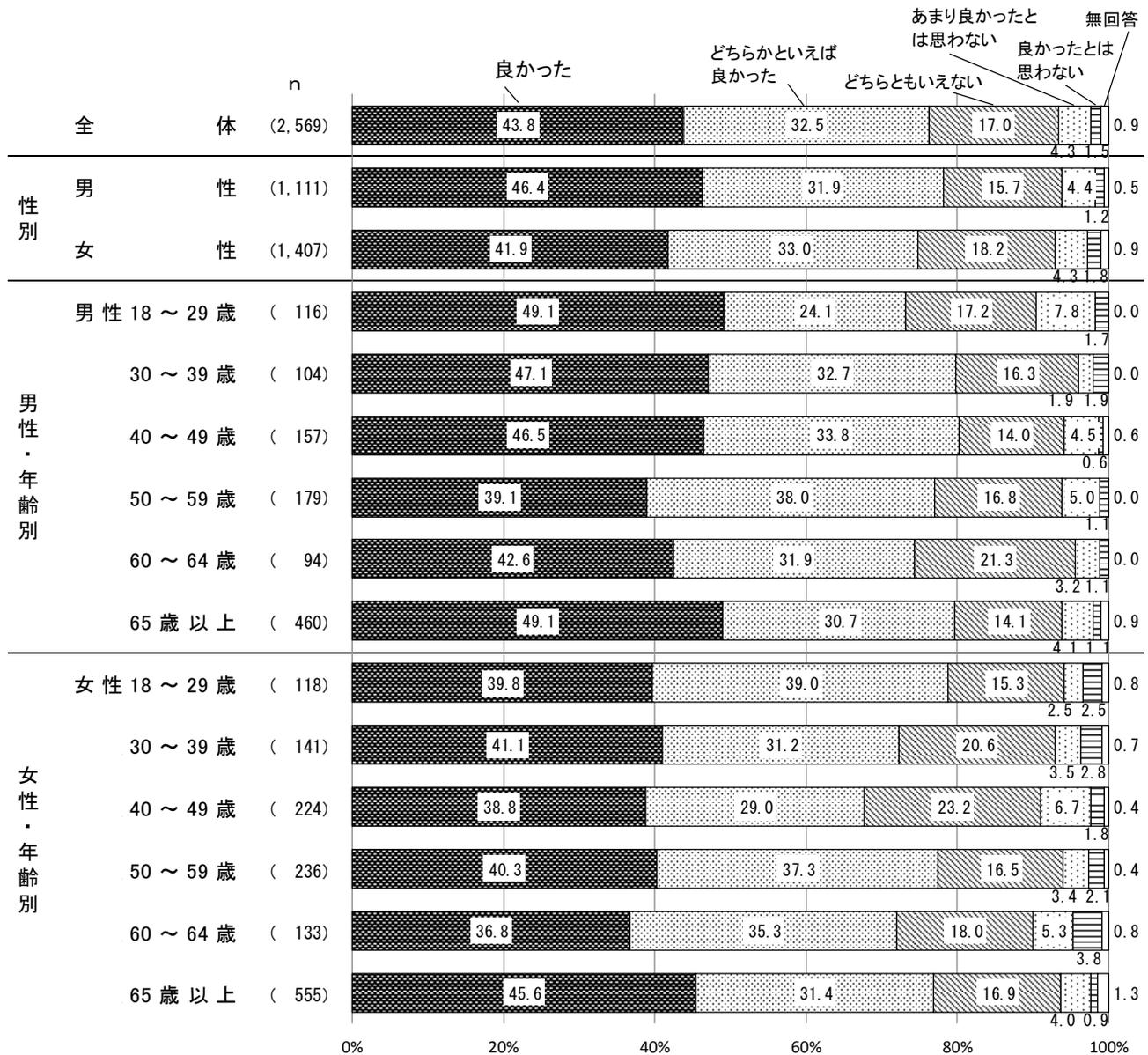
◇《良かった》が8割近く



八王子市に住んで良かったと思うか聞いたところ、「良かった」(43.8%)と「どちらかといえば良かった」(32.5%)を合わせた《良かった》(76.3%)は8割近くとなっている。一方、「どちらともいえない」(17.0%)は2割近くで、「あまり良かったとは思わない」(4.3%)と「良かったとは思わない」(1.5%)を合わせた《良かったとは思わない》(5.8%)は1割に届いていない。

前回までの調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図1-1-1)

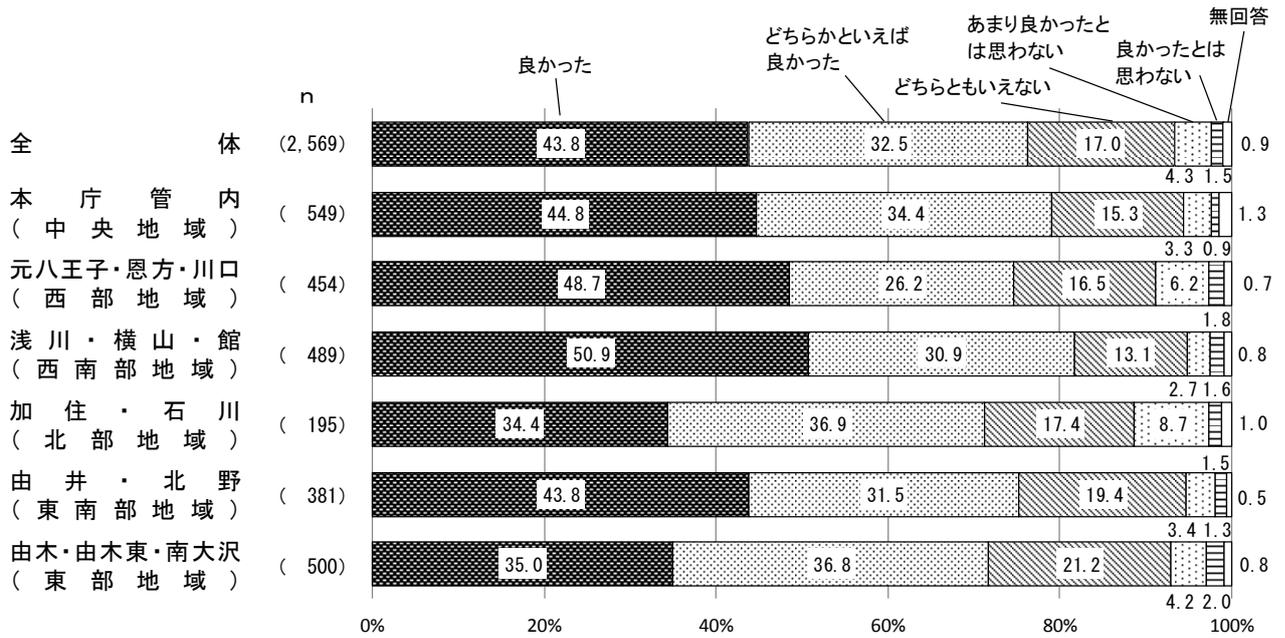
図 1-1-2 八王子市に住んで良かったと思うかー性別、性・年齢別



性別にみると、《良かった》は男性（78.3%）が女性（74.9%）より3.4ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、《良かった》は男性の30～39歳（79.8%）、40～49歳（80.3%）、65歳以上（79.8%）の3層でそれぞれ8割前後と多くなっている一方、女性40～49歳（67.8%）で7割近くと少なくなっている。また、《良かったとは思わない》は男性18～29歳（9.5%）、女性60～64歳（9.1%）で1割弱と多くなっている。（図1-1-2）

図 1-1-3 八王子市に住んで良かったと思うか—居住地域別



居住地域別にみると、《良かった》は浅川・横山・館（西南部地域）（81.8%）で8割強、本庁管内（中央地域）（79.2%）で8割弱と多くなっている。（図 1-1-3）

(2) まちの魅力をどの程度おすすめしたいか

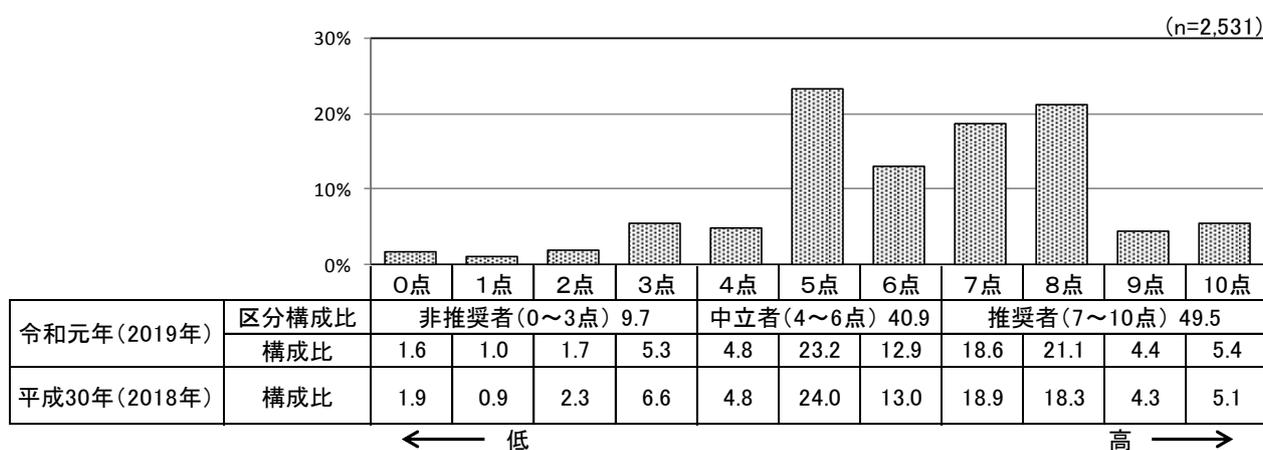
◇自分のまちの魅力を、家族・友人・知人にすすめたい程度を表す【推奨意欲スコア】は、プラス39.8ポイント

問2 あなたは、自分のまちの魅力を、家族・友人・知人にどの程度おすすめしたいと思いますか。最も強い気持ちを10、まったくない場合を0とし、あなたの気持ちを点数で表してください。(該当する数字1つに○)

※ ここでいう「まちの魅力」とは・・・

- 住みやすさ、働きやすさ、子育てしやすさ、交通や買い物の便利さ
 - 学習環境、スポーツ環境
 - 自然、まちなみ、まちの雰囲気
 - お店、グルメ、特産品、農産物
 - イベントやお祭り
 - 歴史・文化
 - 高尾山などの観光スポット
 - 人物・企業・団体
- など、どのようなものでも構いません。

図1-2-1 まちの魅力をどの程度おすすめしたいか（無回答を除く）－全体



(注) 推奨意欲スコアの算出のため、無回答(38人)を除いている。

(注) 区分別構成比は、各点の回答者数の合計をnで除して算出しているため、各点の構成比の単純合計とは、必ずしも一致しない。

◆推奨意欲スコア

推奨者(49.5%) - 非推奨者(9.7%) = 推奨意欲スコア(+39.8ポイント)

(注) 推奨意欲スコアとは、企業・商品などのブランド価値評価に用いられる「NPS(ネット・プロモーター・スコア)」を参考にした指標で、以下のように算出している。

- ・まちに対する「居住」「来訪」等を推奨する気持ちを0～10点の11段階で測定。
- ・「推奨者」(7～10点を付けた人)、「中立者」(4～6点を付けた人)、「非推奨者」(0～3点を付けた人)に区分して、「推奨者の割合-非推奨者の割合」を計算。
- ・最低-100ポイント(全員が非推奨者)から最高+100ポイント(全員が推奨者)までで評価。
- ・なお、この指標は、絶対評価や他自治体との比較に用いるものではなく、経年変化を見るためのものである。

自分のまちの魅力を、家族・友人・知人にどの程度すすめたいかを0～10点の11段階で聞いたところ、7～10点を付けた《推奨者》が49.5%、4～6点を付けた《中立者》が40.9%、0～3点を付けた《非推奨者》が9.7%となっている。この結果を元に《推奨者》の割合から《非推奨者》の割合を引いた【推奨意欲スコア】は+(プラス)39.8ポイントとなる。

前回の調査と比較すると「推奨意欲スコア」は平成30年(2018年)(+35.1ポイント)より4.7ポイント増加している。(図1-2-1)

(3) まちのために活動したいと思うか

◇自分のまちを良くしたり、おもしろくしたりするために活動したいという気持ちの強さを表す【活動意欲スコア】は、マイナス1.2ポイント

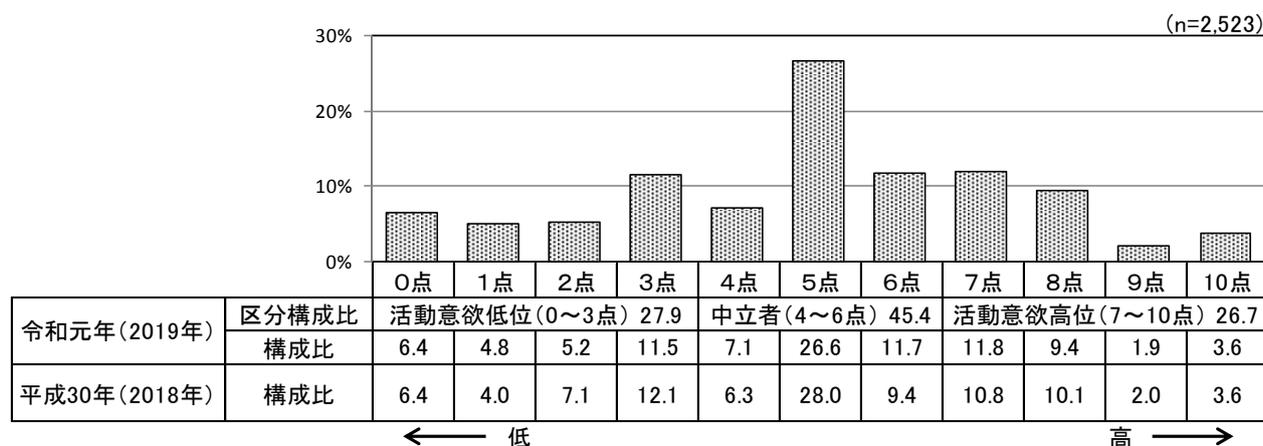
問3 あなたは、自分のまちを良くしたり、おもしろくしたりするために活動したいという気持ちをお持ちですか。最も強い気持ちを10、まったくない場合を0とし、あなたの気持ちを点数で表してください。(該当する数字1つに○)

※ ここでいう「活動」とは・・・

- 地域のおもしろい情報や役に立つ情報の発信
- お祭りや文化活動の担い手としての活動
- イベントの企画・運営やサポート
- 公園、道路、河川などの維持活動（清掃や除草など）
- 町会・自治会、子ども会、PTAなどへの参加
- ボランティアやNPO活動
- 市政への意見表明や市の審議会などへの参加

などを幅広く含みます。身近なもの、個人的なものでも構いません。

図1-3-1 まちのために活動したいと思うか（無回答を除く）－全体



(注) 活動意欲スコアの算出のため、無回答(46人)を除いている。

(注) 区分別構成比は、各点の回答者数の合計をnで除して算出しているため、各点の構成比の単純合計とは、必ずしも一致しない。

◆活動意欲スコア

活動意欲高位(26.7%) - 活動意欲低位(27.9%) = 活動意欲スコア(-1.2ポイント)

(注) 活動意欲スコアとは、企業・商品などのブランド価値評価に用いられる「NPS(ネット・プロモーター・スコア)」を参考にした指標で、以下のように算出している。

- ・活動への意欲を0~10点の11段階で測定。
- ・「活動意欲高位」(7~10点を付けた人)、「中立者」(4~6点を付けた人)、「活動意欲低位」(0~3点を付けた人)に区分して、「活動意欲高位の割合-活動意欲低位の割合」を計算。
- ・最低-100ポイント(全員が活動意欲低位)から最高+100ポイント(全員が活動意欲高位)までで評価。
- ・なお、この指標は、絶対評価や他自治体との比較に用いるものではなく、経年変化を見るためのものである。

自分のまちを良くしたり、おもしろくしたりするために活動したいという気持ちの強さを0～10点の11段階で聞いたところ、7～10点を付けた《活動意欲高位》が26.7%、4～6点を付けた《中立者》が45.4%、0～3点を付けた《活動意欲低位》が27.9%となっている。この結果を元に《活動意欲高位》の割合から《活動意欲低位》の割合を引いた【活動意欲スコア】は－（マイナス）1.2ポイントとなる。

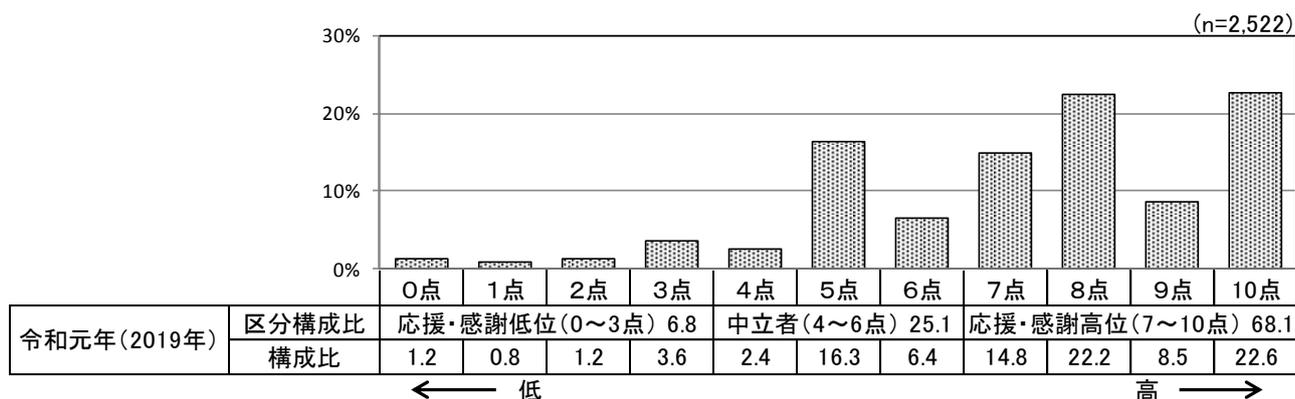
前回の調査と比較すると「活動意欲スコア」は平成30年（2018年）（－3.1ポイント）より1.9ポイント増加している。（図1－3－1）

(4) まちのために活動する人への応援や感謝

◇自分のまちを良くする活動に参加している人たちを応援したり、感謝する気持ちの強さを表す【応援・感謝スコア】は、プラス61.3ポイント

問4 あなたは、問3で例示したような活動に参加している人たちに対して、応援したり感謝する気持ちはどれくらいありますか。非常にある場合を10、まったくない場合を0とし、あなたの気持ちを点数で表してください。(該当する数字1つに○)

図1-4-1 まちのために活動する人への応援や感謝(無回答を除く) - 全体



(注) 新規の設問のため、経年比較はない。

(注) 応援・感謝スコアの算出のため、無回答(47人)を除いている。

(注) 区分別構成比は、各点の回答者数の合計をnで除して算出しているため、各点の構成比の単純合計とは、必ずしも一致しない。

◆応援・感謝スコア

応援・感謝高位(68.1%) - 応援・感謝低位(6.8%) = 応援・感謝スコア(61.3ポイント)

(注) 応援・感謝スコアとは、企業・商品などのブランド価値評価に用いられる「NPS(ネット・プロモーター・スコア)」を参考にした指標で、以下のように算出している。

- ・ 応援・感謝の気持ちの強さを0~10点の11段階で測定。
- ・ 「応援・感謝高位」(7~10点を付けた人)、「中立者」(4~6点を付けた人)、「応援・感謝低位」(0~3点を付けた人)に区分して、「応援・感謝高位の割合-応援・感謝低位の割合」を計算。
- ・ 最低-100ポイント(全員が応援・感謝低位)から最高+100ポイント(全員が応援・感謝高位)までで評価。
- ・ なお、この指標は、絶対評価や他自治体との比較に用いるものではなく、経年変化を見るためのものである。

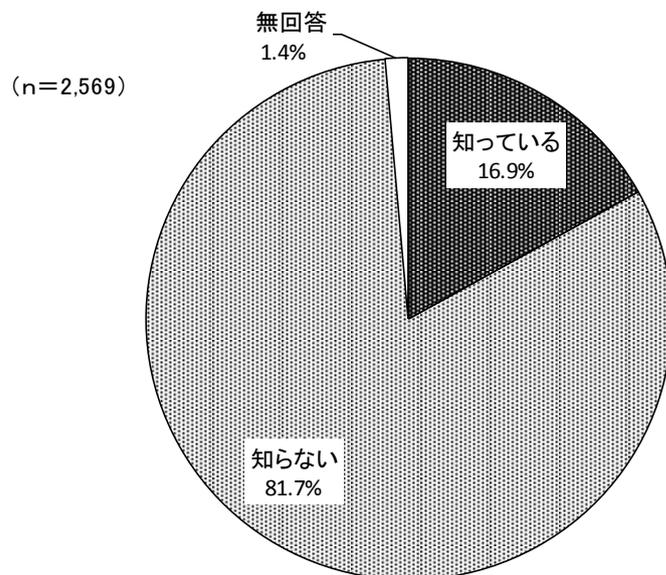
自分のまちを良くする活動に参加している人たちを応援したり、感謝する気持ちの強さを0~10点の11段階で聞いたところ、7~10点を付けた《応援・感謝高位》が68.1%、4~6点を付けた《中立者》が25.1%、0~3点を付けた《応援・感謝低位》が6.8%となっている。この結果を元に《応援・感謝高位》の割合から《応援・感謝低位》の割合を引いた【応援・感謝スコア】は+(プラス)61.3ポイントとなる。(図1-4-1)

(5) 市のブランドメッセージの周知度

◇「知らない」が8割強

問5 あなたは、市のブランドメッセージ「あなたのみちを、あるけるまち。八王子」を知っていますか？

図1-5-1 市のブランドメッセージの周知度－全体



(注) 新規の設問のため、経年比較はない。

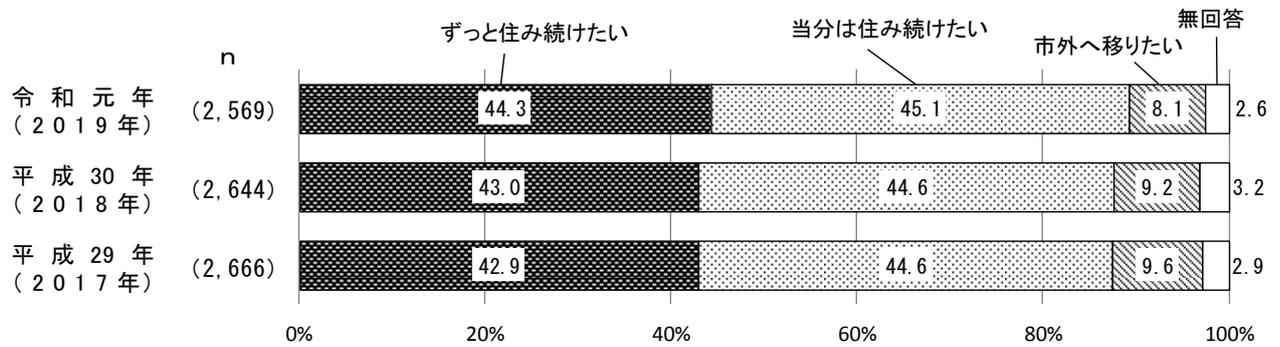
八王子市のブランドメッセージを知っているか聞いたところ、「知っている」(16.9%)が2割近く、「知らない」(81.7%)が8割強となっている。(図1-5-1)

(6) 定住意向

◇《住み続けたい》が9割弱

問6 あなたは、これからも八王子市に住み続けたいと思いますか。(○は1つだけ)

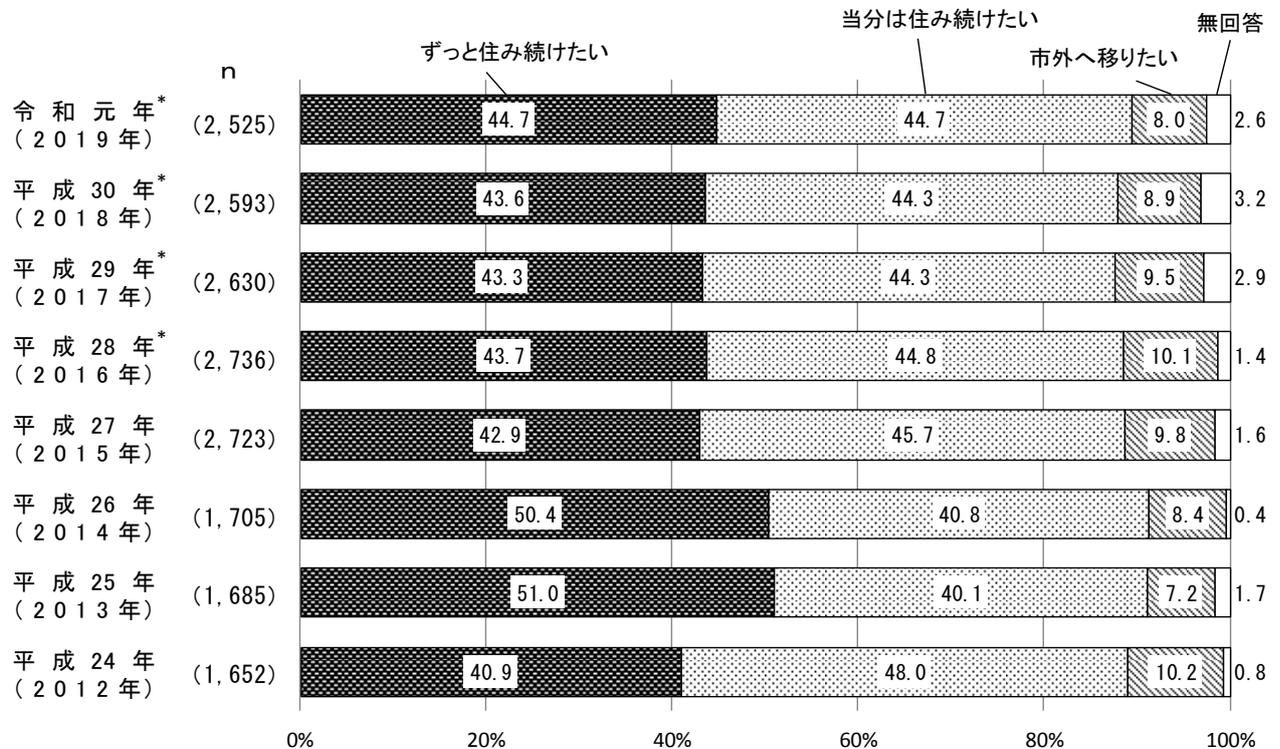
図1-6-1 定住意向—全体、経年比較



これからも八王子市に住み続けたいと思うか聞いたところ、「ずっと住み続けたい」(44.3%)と「当分は住み続けたい」(45.1%)を合わせた《住み続けたい》(89.4%)が9割弱と多くなっている。一方、「市外へ移りたい」(8.1%)は1割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図1-6-1)

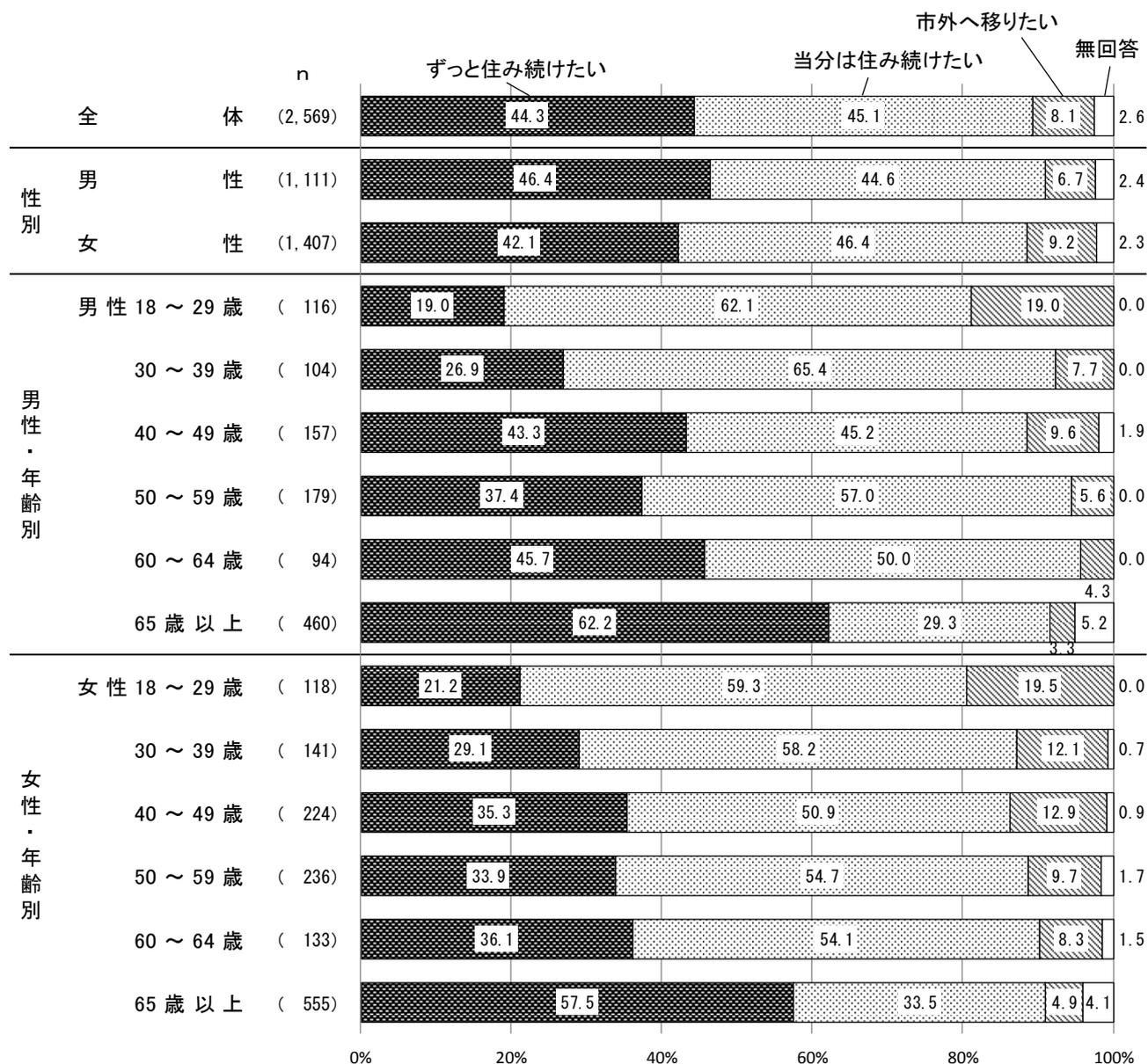
図1-6-2 定住意向—経年比較(過去8年)



※調査対象者を20歳以上としていた平成27年(2015年)以前の調査結果と比較するため、28年(2016年)～令和元年(2019年)は、18歳及び19歳を除いた数を使用している。

過去8年間の調査結果を比較すると、《住み続けたい》は各年9割近くから9割強の間にあり、特に最近の5年間は88%前後の比率で推移していて、大きな違いはみられない。(図1-6-2)

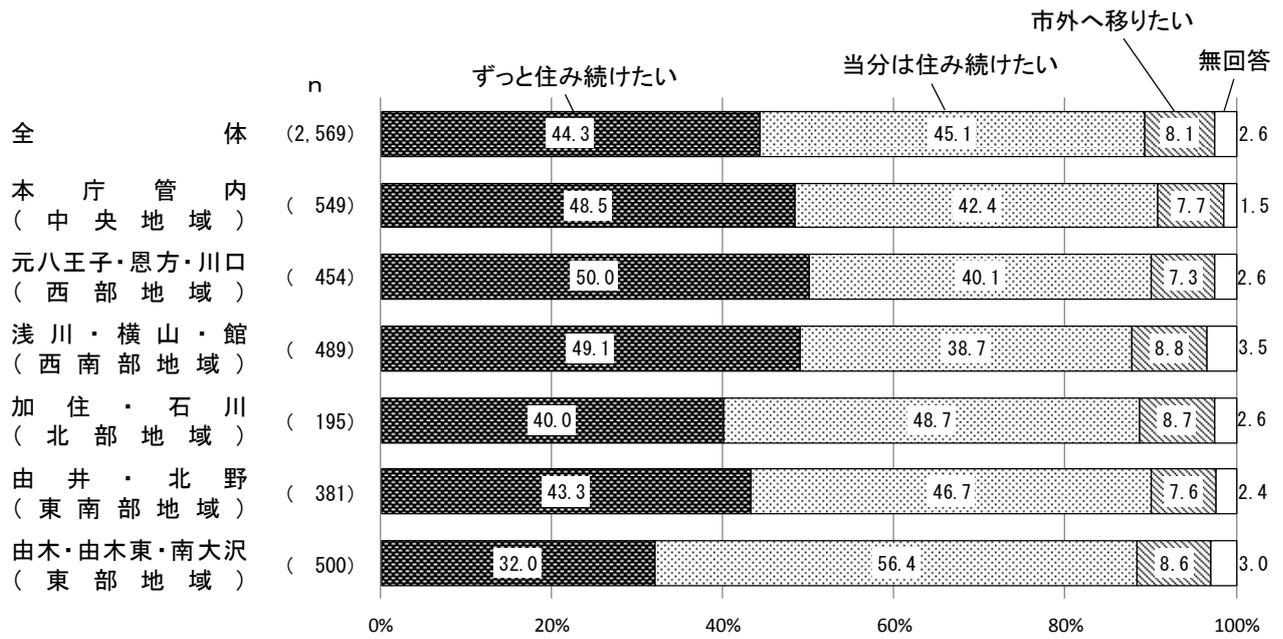
図1-6-3 定住意向—性別、性・年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

性・年齢別にみると、「ずっと住みたい」は男女とも65歳以上（男性62.2%、女性57.5%）でそれぞれ6割強、6割近くと多くなっている。一方、「市外へ移りたい」は男性18～29歳（19.0%）と女性18～29歳（19.5%）でそれぞれ2割弱と多くなっている。（図1-6-3）

図1-6-4 定住意向-居住地域別



居住地域別にみると、「ずっと住みたい」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（50.0％）で5割、浅川・横山・館（西南部地域）（49.1％）で5割弱と多くなっている。一方、由木・由木東・南大沢（東部地域）（32.0％）では3割強と少なくなっている。（図1-6-4）

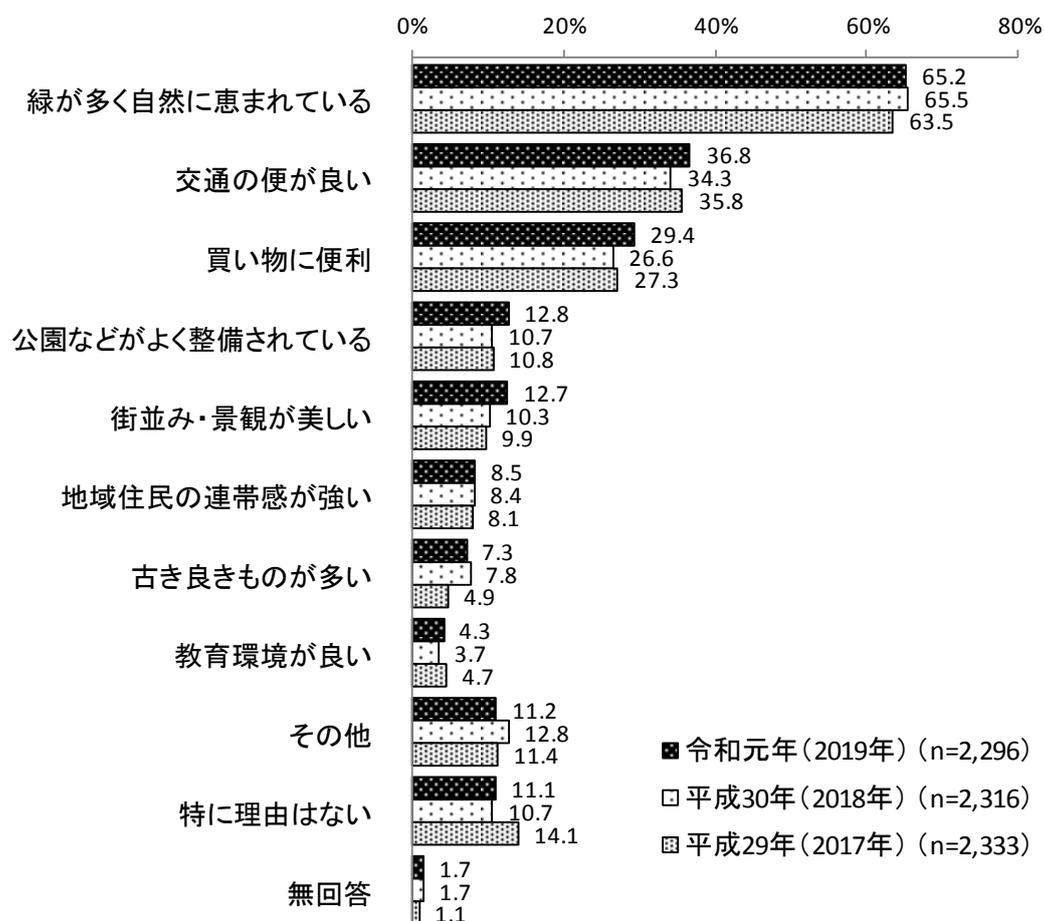
(7) 住み続けたい理由

◇「緑が多く自然に恵まれている」が6割台半ば

(問6で「ずっと住み続けたい」または「当分は住み続けたい」とお答えの方へ)

問6-1 住み続けたい主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

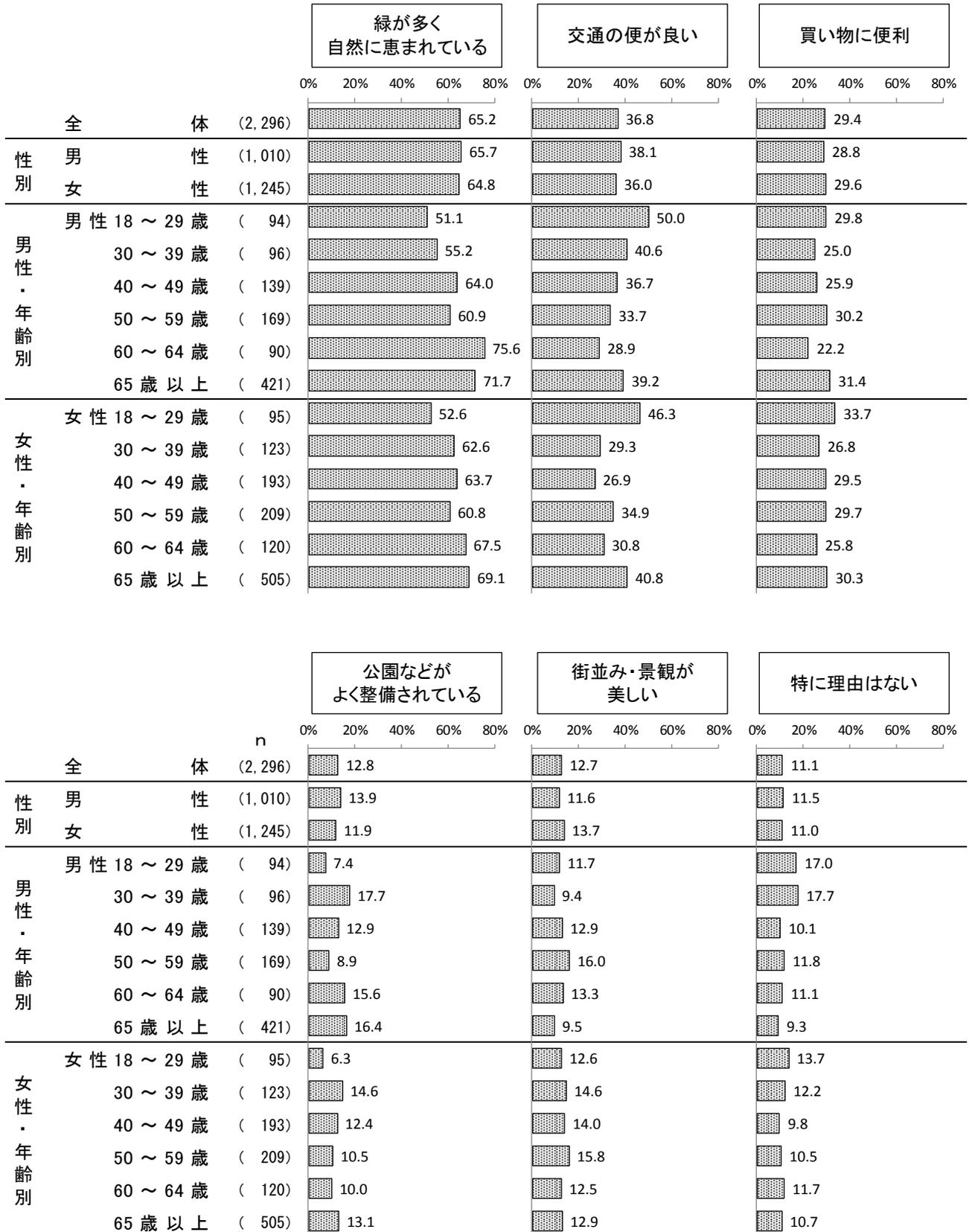
図1-7-1 住み続けたい理由—全体、経年比較



八王子市に「ずっと住み続けたい」または「当分は住み続けたい」と回答した2,296人に、その理由を聞いたところ、「緑が多く自然に恵まれている」(65.2%)が最も多く6割台半ばとなっている。次いで「交通の便が良い」(36.8%)が4割近くで続き、以下「買い物に便利」(29.4%)、「公園などがよく整備されている」(12.8%)、「街並み・景観が美しい」(12.7%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、平成30年(2018年)より「買い物に便利」が2.8ポイント、「交通の便が良い」が2.5ポイント、「街並み・景観が美しい」が2.4ポイント、「公園などがよく整備されている」が2.1ポイント増加している。(図1-7-1)

図1-7-2 住みたい理由—性別、性・年齢別（上位5位+「特に理由はない」）

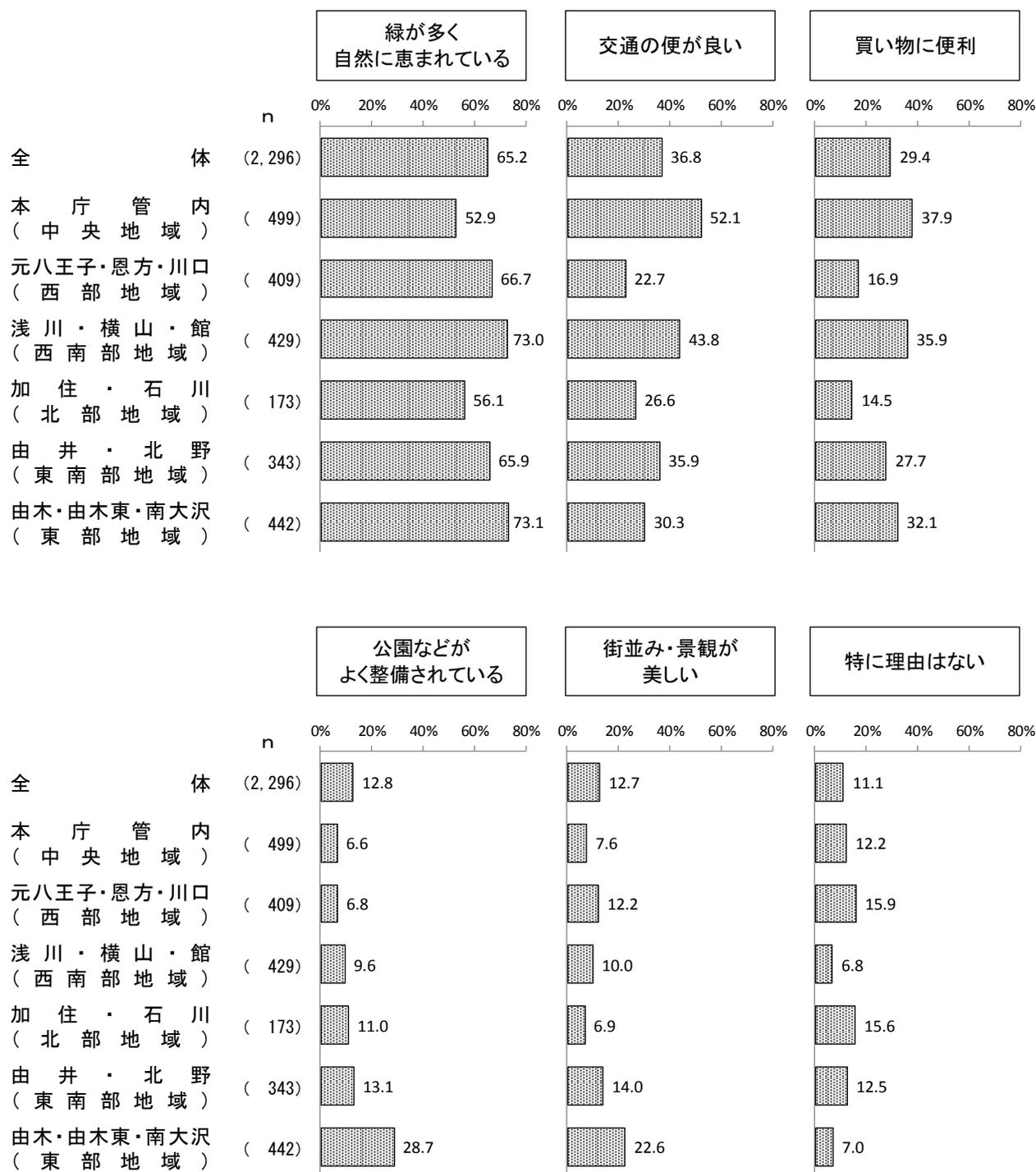


性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

性・年齢別にみると、「緑が多く自然に恵まれている」は男性60～64歳（75.6%）で7割台半ばと多くっており、「交通の便が良い」は男性18～29歳（50.0%）で5割と多くになっている。

（図1-7-2）

図 1-7-3 住み続けたい理由—居住地域別（上位 5 位 + 「特に理由はない」）



居住地域別にみると、「緑が多く自然に恵まれている」は浅川・横山・館（西南部地域）（73.0%）、由木・由木東・南大沢（東部地域）（73.1%）でそれぞれ7割強と多くなっている。「交通の便が良い」は本庁管内（中央地域）（52.1%）で5割強と多く、「買い物に便利」も本庁管内（中央地域）（37.9%）が4割近くで最も多くなっている。「公園などがよく整備されている」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（28.7%）で3割近くと多く、「街並み・景観が美しい」も由木・由木東・南大沢（東部地域）（22.6%）で2割強と多くなっている。（図1-7-3）

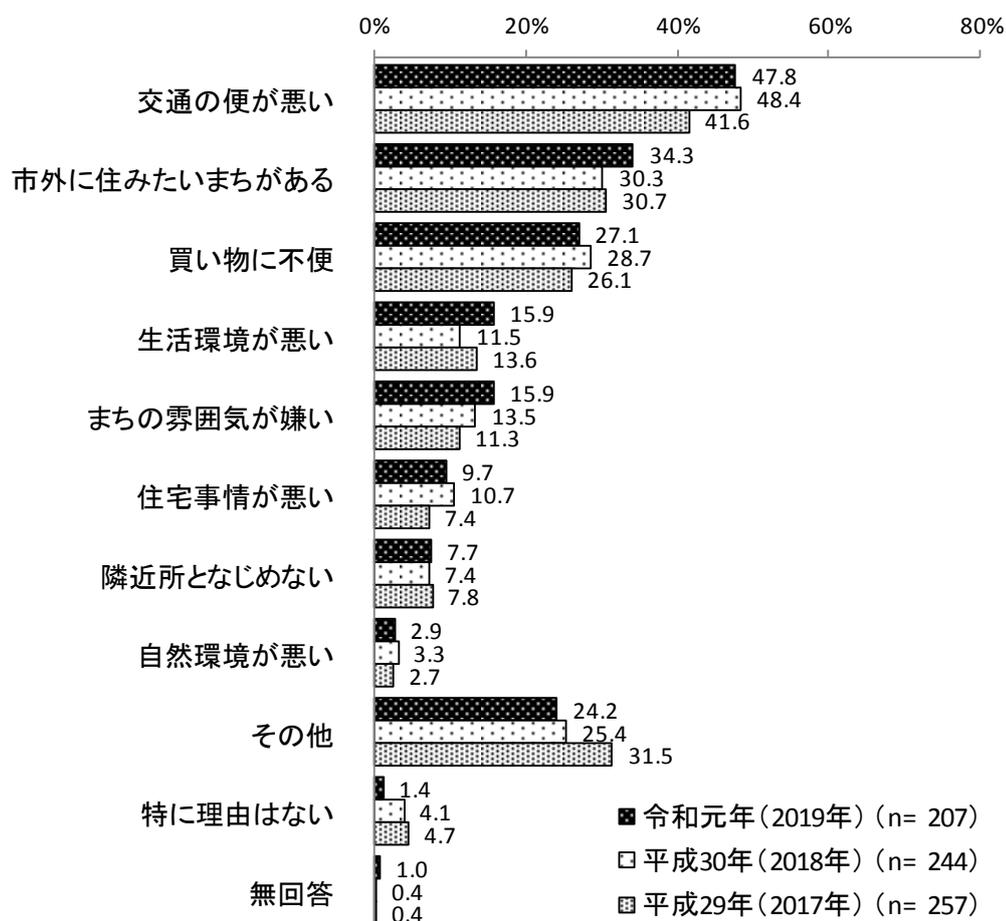
(8) 市外へ移りたい理由

◇「交通の便が悪い」が5割近く

(問6で「市外へ移りたい」とお答えの方へ)

問6-2 市外へ移りたい主な理由は何ですか。(○は3つまで)

図1-8-1 市外へ移りたい理由—全体、経年比較

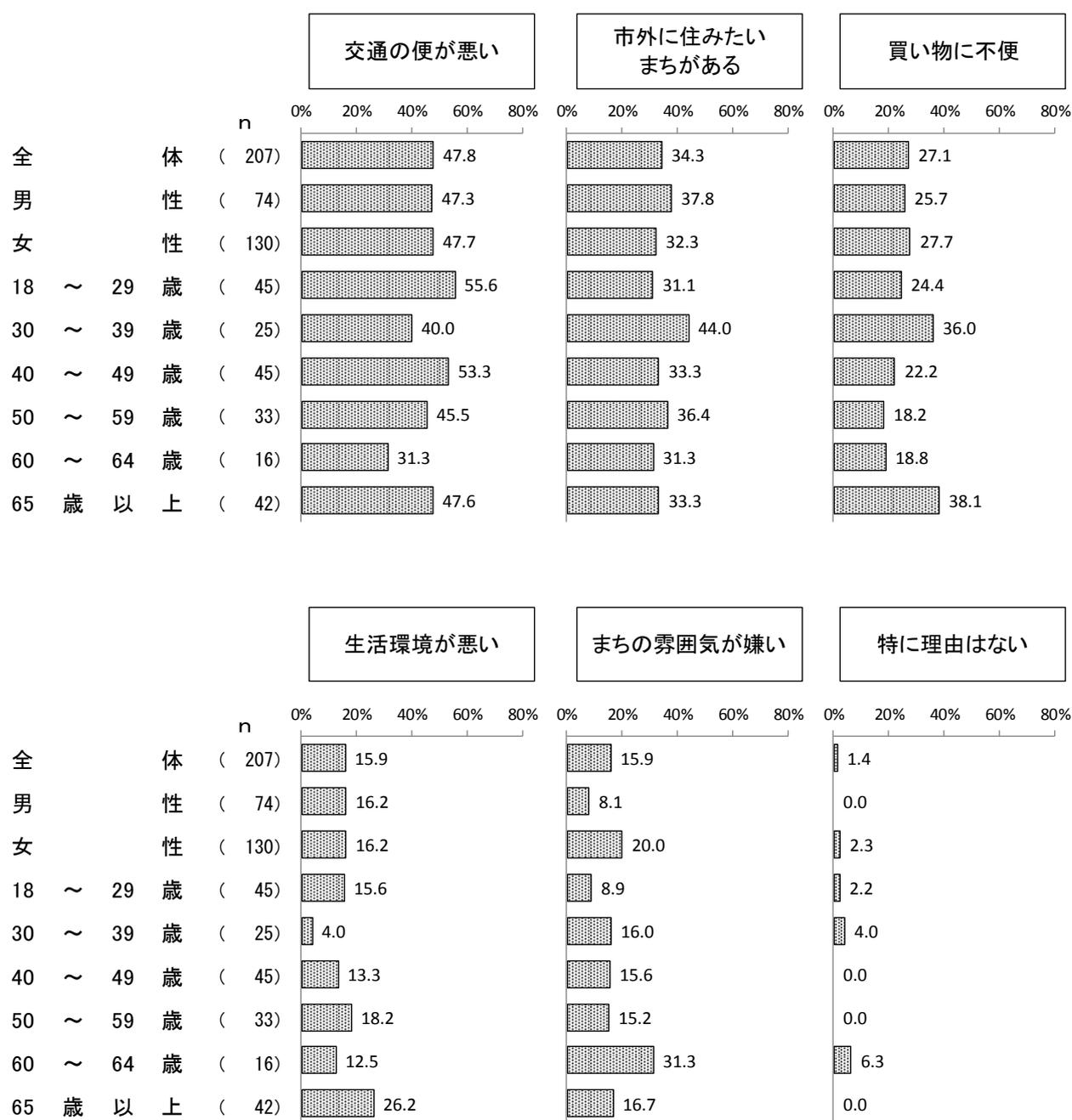


八王子市から「市外へ移りたい」と回答した207人にその理由を聞いたところ、「交通の便が悪い」(47.8%)が5割近くと最も多くなっている。次いで「市外に住みたいまちがある」(34.3%)と「買い物に不便」(27.1%)が3割前後で続き、以下「生活環境が悪い」(15.9%)、「まちの雰囲気が嫌い」(15.9%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、平成30年(2018年)より「生活環境が悪い」は4.4ポイント、「市外に住みたいまちがある」は4.0ポイント、「まちの雰囲気が嫌い」は2.4ポイント増加している。

(図1-8-1)

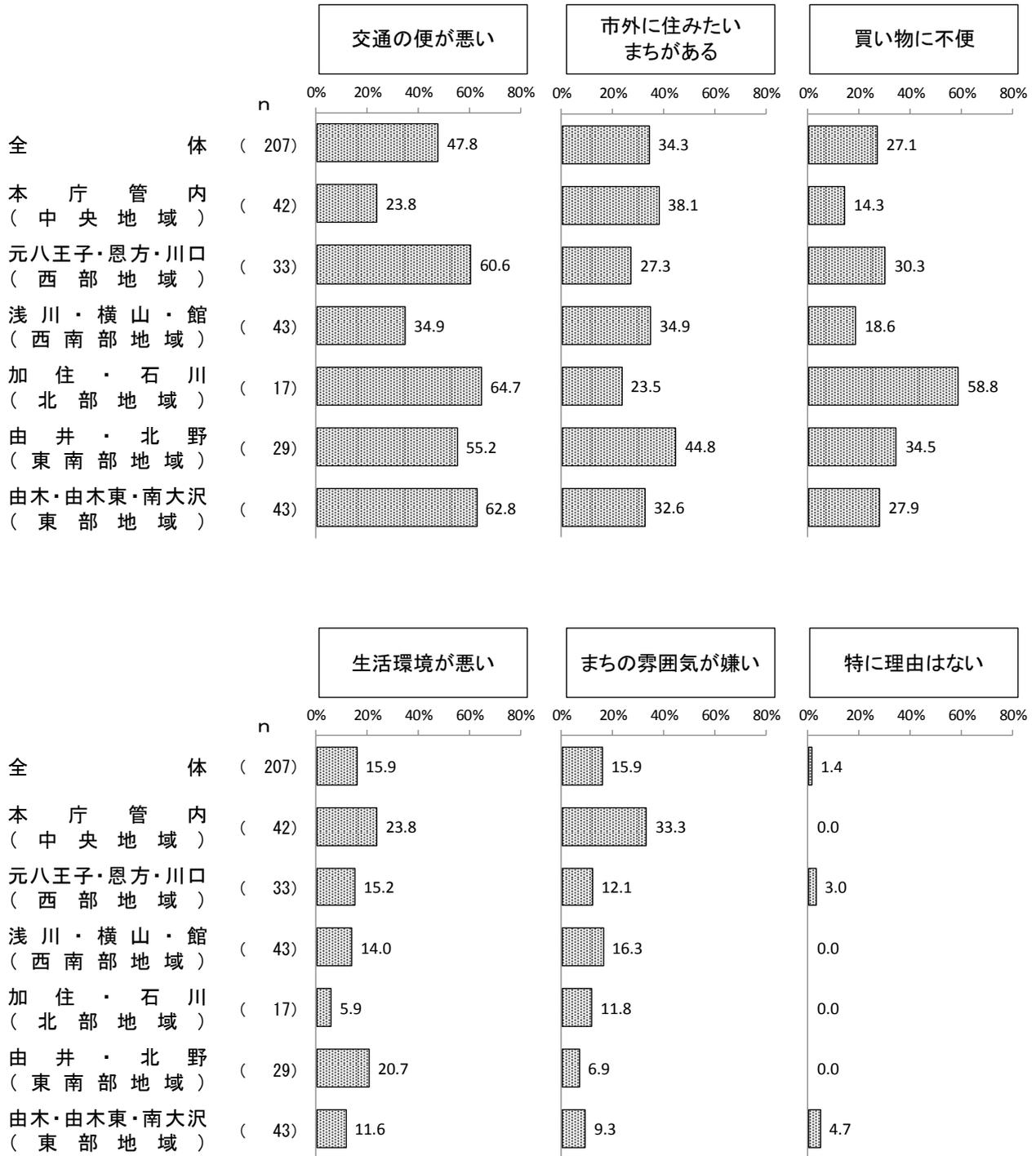
図1-8-2 市外へ移りたい理由—性別、年齢別（上位5位+「特に理由はない」）



性別にみると、「市外に住みたいまちがある」は男性（37.8%）が女性（32.3%）より5.5ポイント高くなっており、「まちの雰囲気が嫌い」は女性（20.0%）が男性（8.1%）より11.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「交通の便が悪い」は18～29歳（55.6%）が5割台半ばと多くなっており、「市外に住みたいまちがある」は30～39歳（44.0%）が4割台半ばと多くなっている。「買い物に不便」は65歳以上（38.1%）が4割近くと多くなっている。（図1-8-2）

図1-8-3 市外へ移りたい理由—居住地域別（上位5位+「特に理由はない」）



居住地域別にみると、「交通の便が悪い」は加住・石川（北部地域）（64.7%）で6割台半ばと多く、「市外に住みたいまちがある」は由井・北野（東南部地域）（44.8%）で4割台半ばと多くなっている。「買い物に不便」は加住・石川（北部地域）（58.8%）で6割近くと多くなっている。

（図1-8-3）

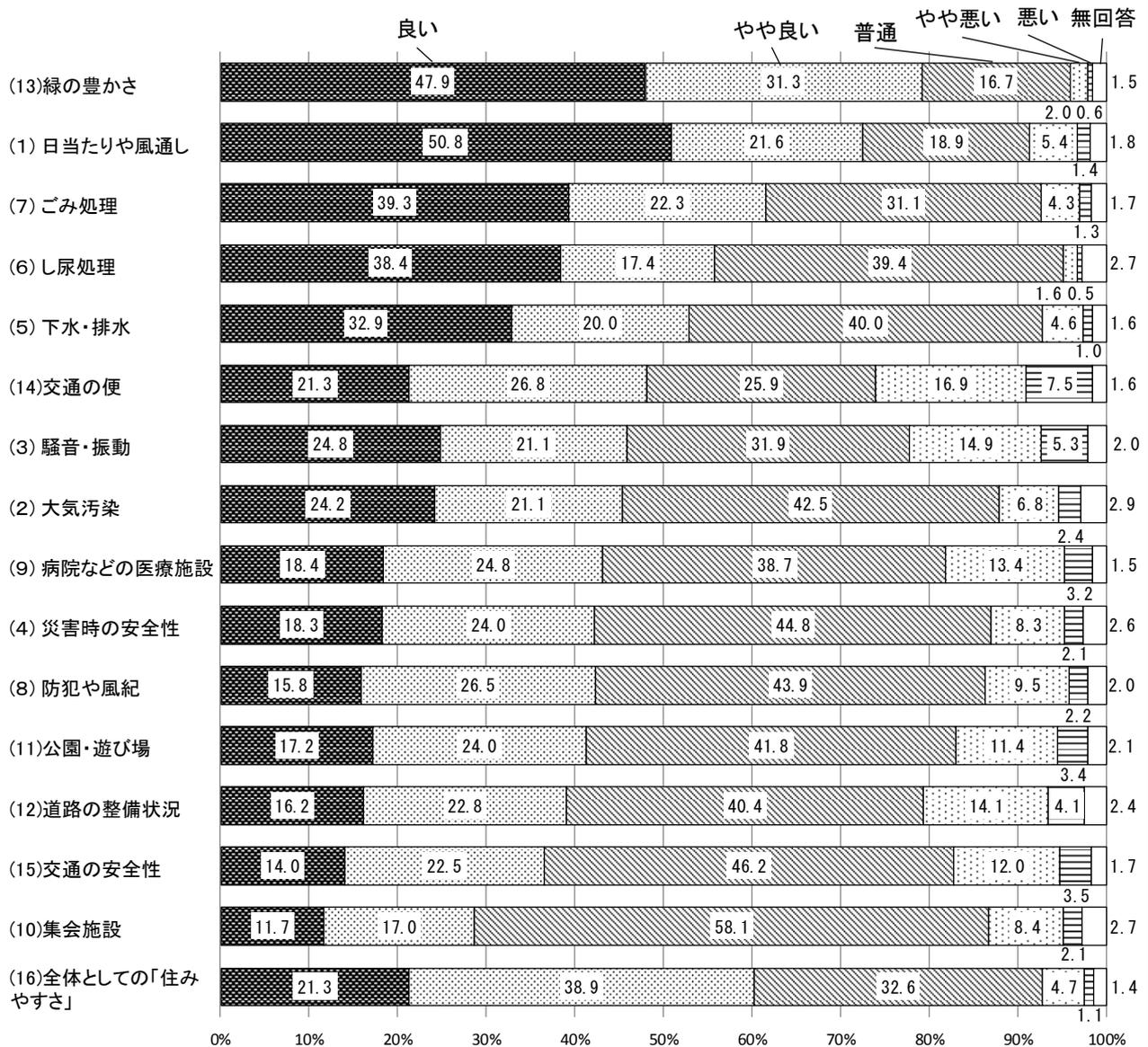
(9) 生活環境の評価

◇《良い》は、「緑の豊かさ」が8割弱、「日当たりや風通し」が7割強

問7 あなたは、周囲の生活環境について日頃どのように感じていますか。

(1)～(16)の各項目それぞれについてお答えください。(〇はそれぞれ1つずつ)

図1-9-1 生活環境の評価—全体



(注) (16) 全体としての「住みやすさ」を除き、「良い」と「やや良い」を合算し、比率の高い順に並べた。

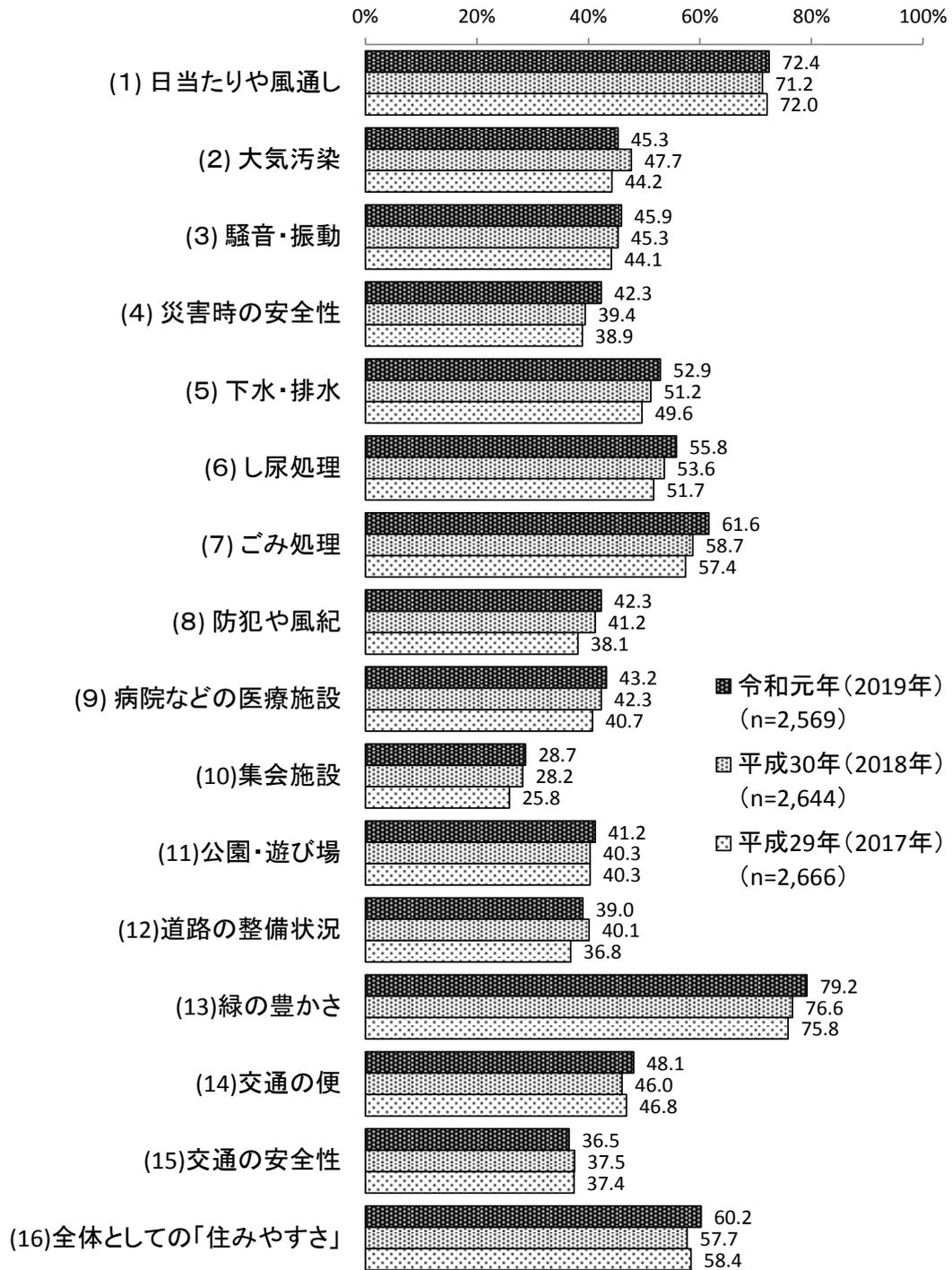
周囲の生活環境について日頃どのように感じているか聞いたところ、「良い」と「やや良い」を合わせた《良い》は、(13) 緑の豊かさ (79.2%) が最も多く8割弱となっている。以下(1) 日当たりや風通し (72.4%)、(7) ごみ処理 (61.6%) などの順で上位となっている。

一方、「やや悪い」と「悪い」を合わせた《悪い》は、(14) 交通の便 (24.4%) が2割台半ばで最も多く、次いで(3) 騒音・振動 (20.2%) となっている。

(16) 全体としての「住みやすさ」は、《良い》 (60.2%) が約6割となっている。

(図1-9-1)

図 1-9-2 生活環境の評価—経年比較（「良い」＋「やや良い」）



「良い」と「やや良い」を合わせた《良い》について前回までの調査と比較すると、ほとんどの項目で目立った経年変動はみられない。

その中で、平成30年(2018年)からの伸びが大きな項目をあげると、(4)災害時の安全性(42.3%)、(7)ごみ処理(61.6%)がそれぞれ2.9ポイント増加、(13)緑の豊かさ(79.2%)が2.6ポイント増加となっている。

また、令和元年(2019年)で、平成30年(2018年)より《良い》の割合が増加したのは13項目で、《良い》の割合が減少したのは(2)大気汚染(2.4ポイント減)、(12)道路の整備状況(1.1ポイント減)、(15)交通の安全性(1.0ポイント減)の3項目となっている。(図1-9-2)

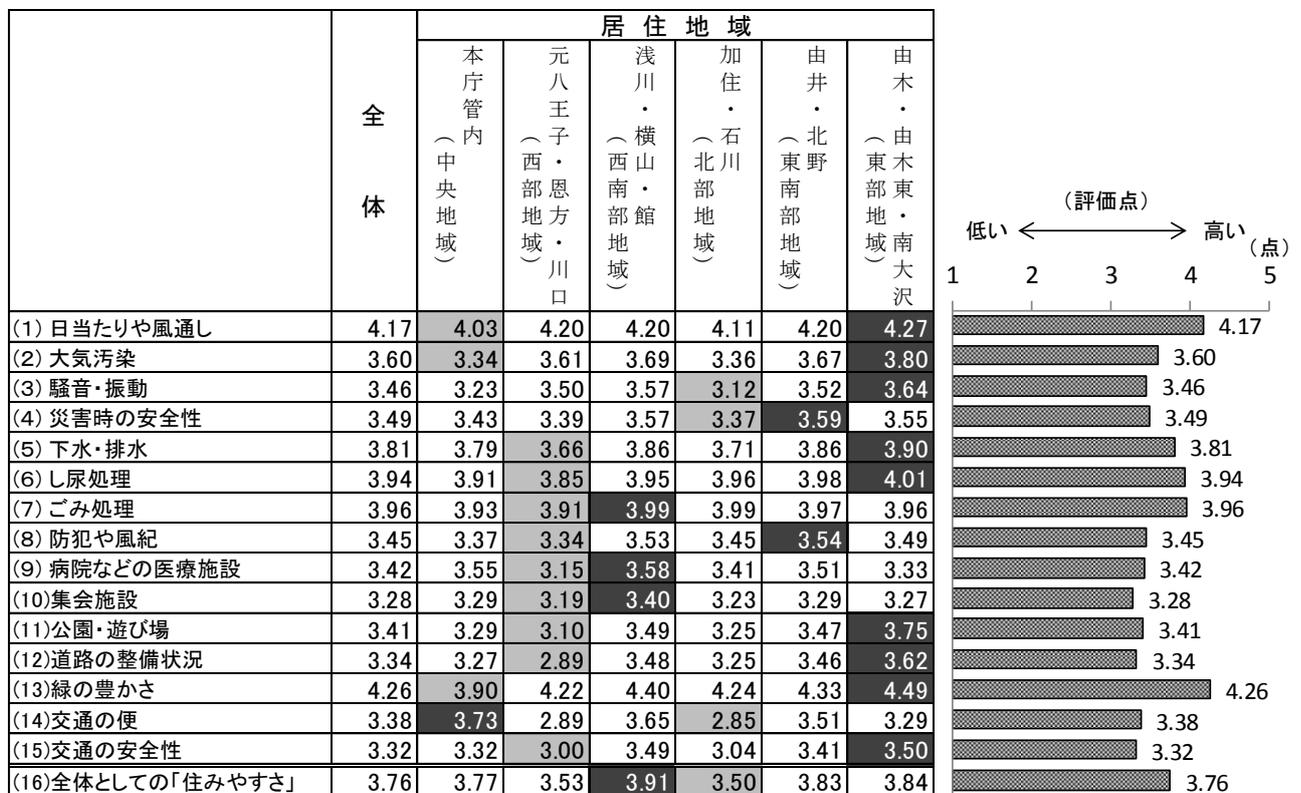
加重平均値（満足度）

生活環境の評価を比率でみるのとは別に、その比率をより明確にするために、加重平均値による数量化を行った。これは、下記の計算式にあるように、数段階の評価に点数を与え、評価点を算出する方法である。

$$\text{評価点} = \left[\left(\text{「良い」の回答者数} \times 5 \text{点} \right) + \left(\text{「やや良い」の回答者数} \times 4 \text{点} \right) + \left(\text{「普通」の回答者数} \times 3 \text{点} \right) + \left(\text{「やや悪い」の回答者数} \times 2 \text{点} \right) + \left(\text{「悪い」の回答者数} \times 1 \text{点} \right) \right] \div \text{回答者数}$$

この計算方法では、評価点は5.00点から1.00点の間に分布し、中間点の3.00点を境に、5.00点に近くなるほど評価は高くなり、1.00点に近くなるほど評価が低くなる。

図1-9-3 生活環境の評価—加重平均



(注) ■ は項目内で最高値、■ は項目内で最低値

以上の算出方法による評価点の高いものと、低いものの5項目は次のようになっている。

【上 位】

緑の豊かさ (4.26点)
日当たりや風通し (4.17点)
ごみ処理 (3.96点)
し尿処理 (3.94点)
下水・排水 (3.81点)

【下 位】

集会施設 (3.28点)
交通の安全性 (3.32点)
道路の整備状況 (3.34点)
交通の便 (3.38点)
公園・遊び場 (3.41点)

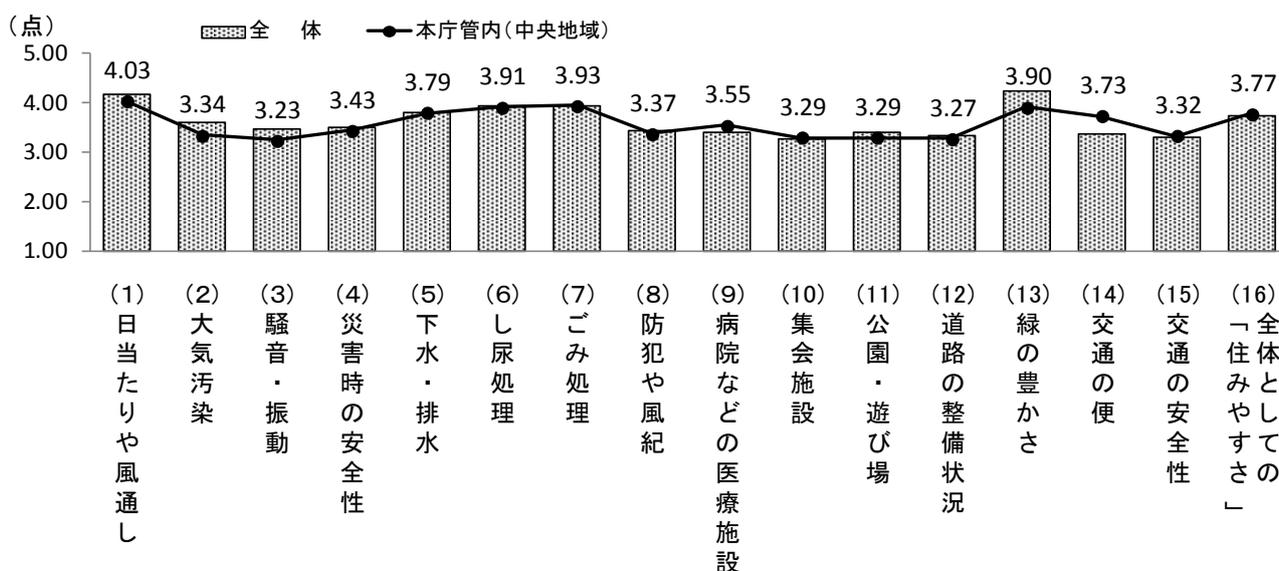
(図1-9-3)

次に、16項目の評価の加重平均値を居住地域ごとに、市全体と対比させてグラフを表示する。

【本庁管内（中央地域）】

市全体より上回っているのは16項目中4項目で、最も差が大きいのは（14）交通の便（+0.35ポイント）となっている。下回っているのは16項目中12項目で、最も差が大きいのは（13）緑の豊かさ（-0.36ポイント）となっている。（図1-9-4）

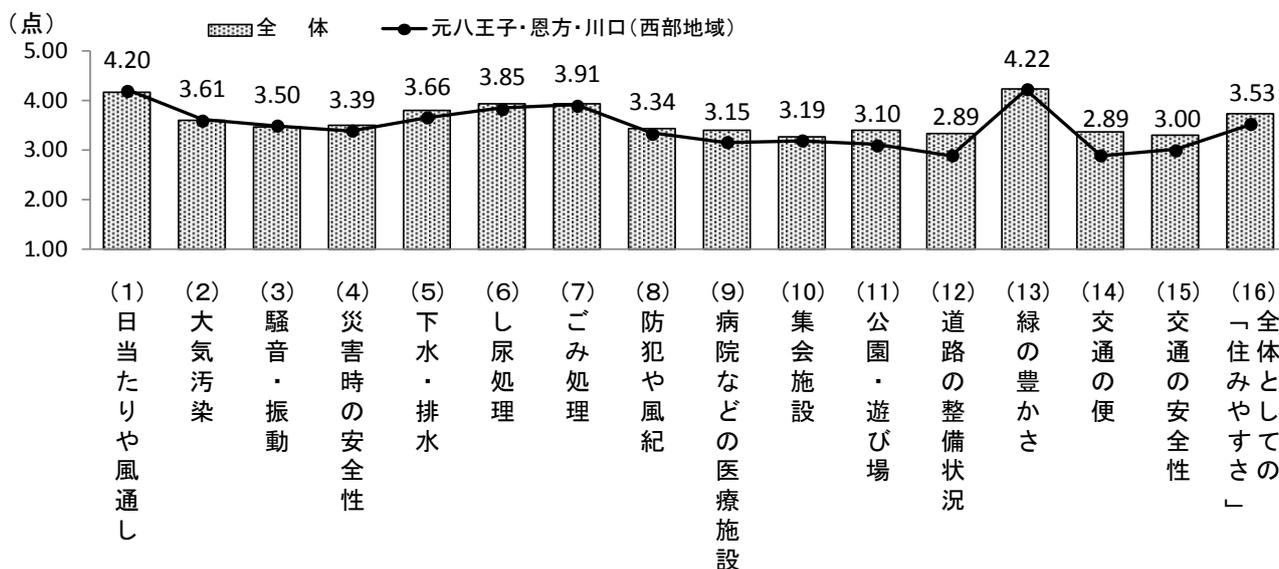
図1-9-4 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「本庁管内（中央地域）」



【元八王子・恩方・川口（西部地域）】

市全体より上回っているのは16項目中3項目で、最も差が大きいのは（3）騒音・振動（+0.04ポイント）となっている。下回っているのは16項目中13項目で、最も差が大きいのは（14）交通の便（-0.49ポイント）となっている。（図1-9-5）

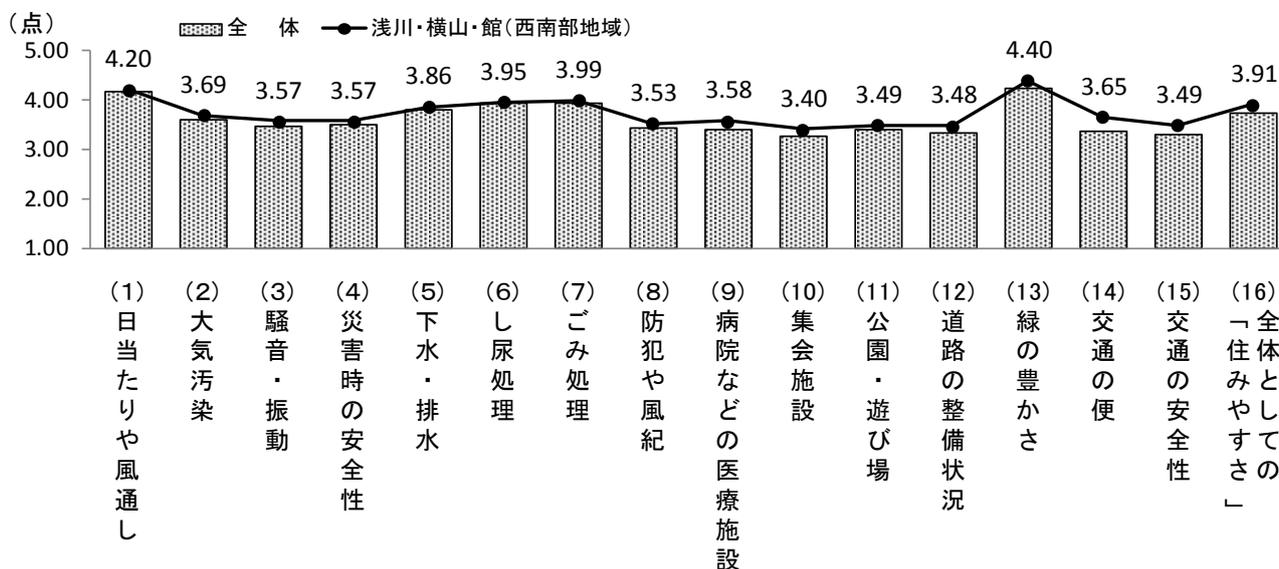
図1-9-5 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「元八王子・恩方・川口（西部地域）」



【浅川・横山・館（西南部地域）】

市全体より上回っているのは16項目中すべての項目で、最も差が大きいのは（14）交通の便（+0.27ポイント）となっている。（図1-9-6）

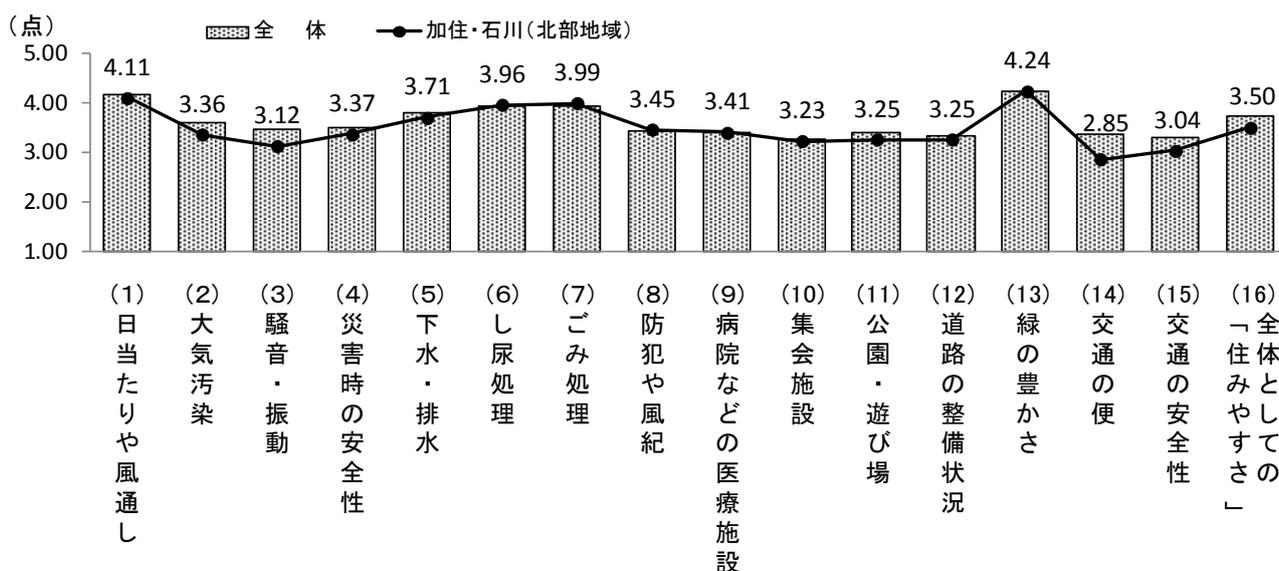
図1-9-6 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「浅川・横山・館（西南部地域）」



【加住・石川（北部地域）】

市全体より上回っているのは16項目中2項目で、最も差が大きいのは（7）ごみ処理（+0.03ポイント）となっている。下回っているのは16項目中13項目で、最も差が大きいのは（14）交通の便（-0.53ポイント）となっている。（図1-9-7）

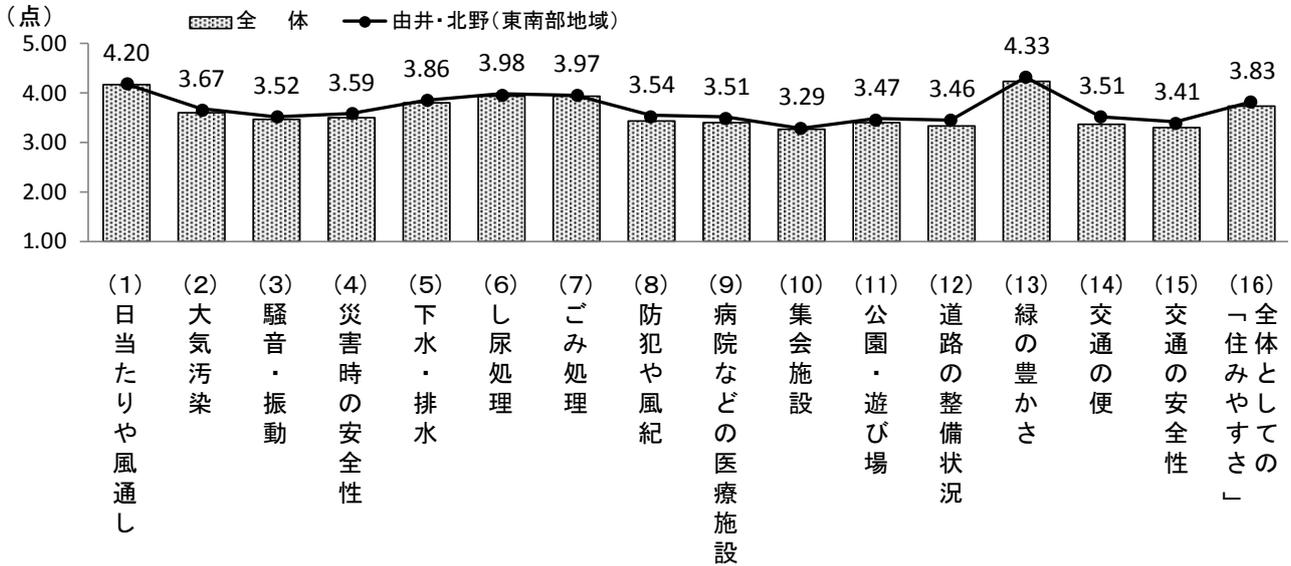
図1-9-7 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「加住・石川（北部地域）」



【由井・北野（東南部地域）】

市全体より上回っているのは16項目中すべての項目で、最も差が大きいのは（14）交通の便（+0.13ポイント）となっている。（図1-9-8）

図1-9-8 生活環境の評価（加重平均）－居住地地域別「由井・北野（東南部地域）」



【由木・由木東・南大沢（東部地域）】

市全体より上回っているのは16項目中13項目で、最も差が大きいのは（11）公園・遊び場（+0.34ポイント）となっている。下回っているのは16項目中3項目で、最も差が大きいのは（9）病院などの医療施設、（14）交通の便（ともに-0.09ポイント）となっている。（図1-9-9）

図1-9-9 生活環境の評価（加重平均）－居住地地域別「由木・由木東・南大沢（東部地域）」

